

ギターを弾こう

■ 構え方

椅子に座って演奏する。この際、背もたれに寄りかからず背筋を伸ばすように。左足を足台に乗せるのがよいが、足台がない場合は右足を上にして足を組んでもよい。足を組むのは、ネックを地面と水平にせず、ヘッドを上に向けるために必要。足台を使う場合、右足を開くので、スカートをはいている生徒にはズボンを履いてもらうなど、配慮が必要かもしれない。左足(足台がない場合は右足)にボディのくぼみを乗せ、裏板は胸に軽く触れるようにし、右ひじはボディより横の側面板に乗せるようにする。ギターは左足、右足、胸、右腕だけで支えることができるので、左足を使って支えてしまわないように注意する。ヘッドは目線の高さくらいになるように。右足の開き具合や足台の高さで楽器の角度を調整する。

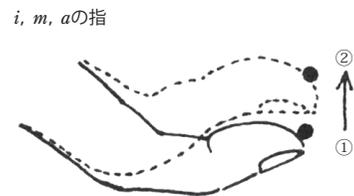
■ 右手のフォーム

弦を弾く位置はサウンドホールのやや右くらいになるように。駒(ブリッジ)の方に寄り過ぎてしまうと、弦が硬くなり、力みやすくなってしまいますので注意が必要。右手の基本的なタッチは次の2種類に分けられる。

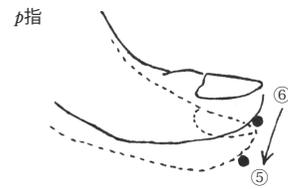
■ アポヤンド奏法

単音やメロディーを弾く際に用いられ、大きくはっきりした音を出すことができる。たとえば、仮に*i, m, a*の指が①弦を弾いた場合、その動きを②弦に当てて止める(図A)。また、*p*の指が⑥弦を弾いた場合、⑤弦に当てて止める動きである(図B)。

図A

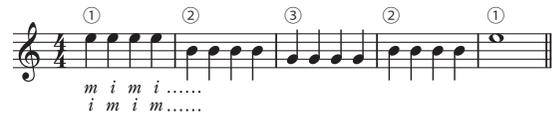


図B



メロディーを弾く場合は「*i, m, i, m*……」のように交互に指を使うことが望ましいので、まずは開放弦を使って交互の動きに慣れることが大切である(譜例1)。弾いたときに、指が止まる弦を押し過ぎないようにすると、力みづらく、スムーズに演奏ができる。

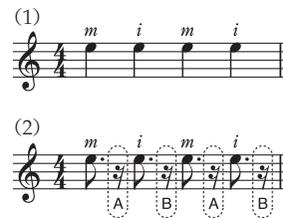
譜例1



■ アル・アイレ奏法

和音やアルペッジョを弾く際に用いられる。隣の弦に当てて動きを止めるアポヤンド奏法に比べて指が安定しづらいので、弦にしっかりと触れてから弾くことを意識すると、安定して演奏することができる。ゆっくりとしたテンポから練習することで、狙った弦を弾く感覚を身につけられる。

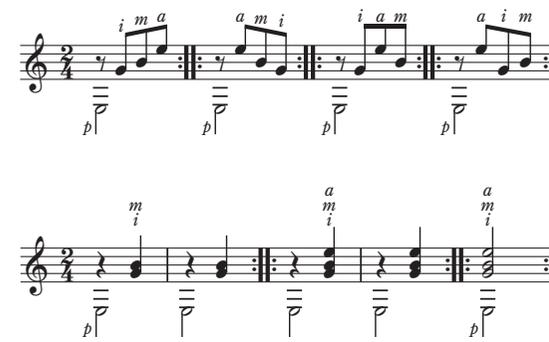
譜例2



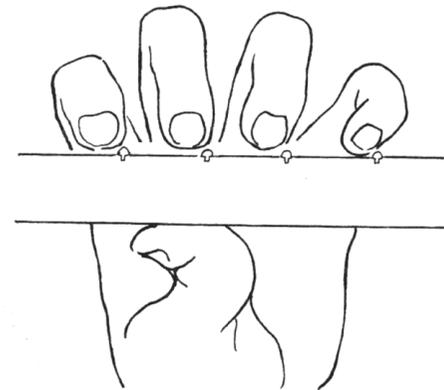
譜例2を演奏する際、Aのときは*i*の指で①弦に触れ、Bのときは*m*の指で①弦に触れる。練習においては譜例2の(1)が(2)のように聞こえるくらいでよい。

和音やアルペッジョを弾く場合、①弦が*a*、②弦が*m*、③弦が*i*、④~⑥弦が*p*、のように決まった弦をそれぞれの指で弾くことが多いため、次のような練習をするとよい。

譜例3

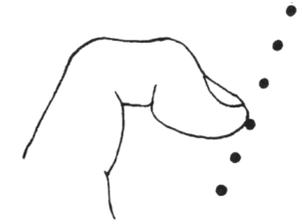


図C



親指はネックの真裏に指の腹が触れるようにする。親指がネックより上に出ていると、ネックを握るようなフォームになってしまい、弦を押さえる指が隣の弦に触れやすくなってしまいますので注意が必要。フレットのすぐ近くを押さえる。

図D



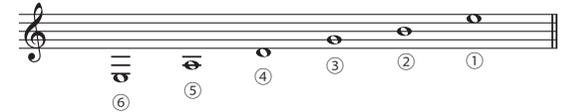
弦を押さえる指は鉤状に曲げ、隣の弦に触れないようにする。

■ チューニング

チューナーを使用すれば、簡単で正確に行うことができる。チューナーがなく、ピアノを用いる場合、ギターの実音はト音記号で記譜された音より1オクターヴ低いいため、ピアノで出す音もギターの実音に合わせると音が合わせやすくなる。

譜例4

ギターの記譜法による各開放弦



その実音



また、音叉などで1つの弦の音を合わせ、その弦を基準に他の弦を合わせることもできる。

- 6弦の5フレット = 5弦の開放弦 = A音
- 5弦の5フレット = 4弦の開放弦 = D音
- 4弦の5フレット = 3弦の開放弦 = G音
- 3弦の4フレット = 2弦の開放弦 = B音
- 2弦の5フレット = 1弦の開放弦 = E音
- 1弦の開放弦 = 6弦の開放弦 = E音(2オクターヴ違い)

